

非病原性エルビニア・カロトボーラ水和剤 バイオキパー水和剤	取扱メーカー： 日産、アリスタ LS、出光アグリ 原体メーカー： セントラル硝子
成分： 非病原性エルビニア・カロトボーラ C G E 234 M 403 5×10^{10} cfu / g	性状： 類白色水和性微粒 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】

- 作用機作は葉面上での養分競合と抗菌物質の産生と考えられる。
- 散布後の降雨で定着したバイオキパーが流出することなく、適度な降雨は定着を促進する。
- 水生生物、有用生物、土壌中の有用微生物などに対する影響がほとんどない。
- 有効成分は生きた非病原性軟腐病菌であり、作物及び周辺作物に対する薬害の心配がない。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】

- 銅剤、オキシロニック酸剤との交互散布が可能で、体系散布により安定した効果が期待できる。
- 発病後の散布では効果が劣る場合があるので、発病前からの予防散布を心掛ける。
- はくさい、キャベツには7～8葉期から散布を開始、結球初期を中心に7～10日間隔で5回程度連続散布すると効果的。

【薬効・薬害等の注意】

- 有効成分は生菌であるので、開封後は全て使いきる。
- 他剤と混用すると十分に効果が発揮されない場合があるので注意する。特に銅剤、ストレプトマイシン剤、オキシロニック酸剤などの抗細菌剤や、有機溶媒を含む薬剤とは混用しない。
- 散布後長期に日照りが続くと効果が劣る場合があるので、再度散布することが望ましい。
- 夏期は冷蔵庫保存（10℃以下）が望ましい。一旦開封した袋は使いきる。
- 共通注意事項8、適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】

- 無人ヘリコプター散布の際は、共通注意事項の2. 空中散布及び無人航空機（無人ヘリコプター等）による散布・滴下に関する注意事項を参照。



【適用と使用法】

作物名	適用病害名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期	本剤及び非病原性エル ビニア・カロトボーラを 含む農薬の総使用回数	使用方法
かんきつ	かいよう病	1000倍	200～700 ℓ	発病前～ 発病初期	—	散布
野菜類 (かぼちゃ、 ズッキーニ を除く)	軟腐病	500～2000倍	150～300 ℓ			
	軟腐細菌病					
かぼちゃ ズッキーニ		1000～2000倍				
ばれいしょ	軟腐病	16倍	3.2 ℓ			無人ヘリコプ ターによる散布
シクラメン		1000倍	150～300 ℓ			散布